

# 再び、 地域から。

## 「未来への責任」

今の政治は、「とりあえず今さえよければいい政治」「上から目線の政治」が横行しているように思えてなりません。街を歩き、多くの皆さんの声をきけば、「いつ、この生活が壊れるか」「将来に不安」という心配をされていることがよく伝わってきます。政治の世界以外では当たり前の「将来から考えて今何をなすべきか」という議論がなされていないことが不思議でなりません。過去の延長線上で物ごとを考える惰性を絶って、未来の堺を明るく、誰もが住みたくするような街にする。例えば、今の中学生が20歳になる「2020年からの」政策的発想、その視点がいま、大切なのではないのでしょうか。今、「下山の時代」と言われます。人口減少が進んでいく中で、この国やこの地域をどのようにしていくかの議論を急がねばなりません。政治と生活は密接につながります。「子育て支援」「環境問題」「年金制度をはじめとした高齢化社会への対応」等、将来への安心をもたらすことが、安心してお金を使えることにつながり、この国や大好きで大事な街「堺」を元気にすることだと信じています。私は、2007年から2011年の4年間、堺市議会議員として、この発想に基づき、様々な提案を行い、政策実現に取り組んできました。この視点を再び議会に持ち込み、堺市政改革に取り組んでまいりたいと考えています。ご指導ご鞭撻、どうぞよろしく願いいたします。

2015年4月吉日

西 哲史